

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月10日

上場会社名 シーマ
 コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 資本政策部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

(氏名) 白石 幸栄
 (氏名) 柳田 純克

TEL 03-3567-8098

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	8,960	—	488	—	469	—	225	—
20年3月期第3四半期	8,794	17.7	762	51.4	806	47.6	432	49.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	1.23	—
20年3月期第3四半期	2.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭	%	
21年3月期第3四半期	9,246	—	5,705	—	61.7	31.05	—	
20年3月期	8,761	—	5,662	—	64.6	30.82	—	

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 5,705百万円 20年3月期 5,662百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	1.00	1.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,165	10.3	1,122	11.0	1,086	2.3	552	△3.9	3.00

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 — 社(社名)) 除外 — 社(社名))(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注) 詳細は6ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等)の変更に記載されるもの
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
(注) 詳細は6ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第3四半期	183,765,644株	20年3月期	183,765,644株
② 期末自己株式数	21年3月期第3四半期	646株	20年3月期	605株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第3四半期	183,765,018株	20年3月期第3四半期	183,765,134株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提のもとで、実際の業績などは、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用に当たっての注記事項などについては、5ページ「【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

(参考) 平成21年3月期第3四半期(3か月)の連結業績
 (平成20年10月1日～平成20年12月31日)

(百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(3か月)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	3,119	—	209	—	208	—	108	—
20年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第3四半期	—	0.59	—	—
20年3月期第3四半期	—	—	—	—

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(前年同四半期の増減率および前年同四半期の金額は、参考として記載しています。)

当第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年12月31日)におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況の様相を呈する中、雇用情勢の悪化、個人消費の停滞や設備投資抑制の動きが見られるなど、国内景気の悪化が鮮明となりました。

このような経済状況のもと、当第3四半期連結累計期間における当社グループ(当社および連結子会社)の連結業績は、売上高89億60百万円(前年同四半期比1.9%増)、営業利益4億88百万円(同36.0%減)、経常利益4億69百万円(同41.8%減)、四半期純利益2億25百万円(同47.8%減)となりました。前年に比べて利益を圧迫した要因としては、急激な国内景気の悪化により、売上が予想に対して伸び悩んだこと、および当第3四半期連結累計期間に、12店舗の出店・移転・改装付帯費用(前期は通期で4店舗出店)を計上したことが大きく影響しました。

通期業績予想につきましては、厳しい経済状況が今後も予想されますが、営業体制でのこ入れによる収益の改善をはかるとともに、一層の経費削減を実施することにより、平成20年5月9日に「平成20年3月期 決算短信」で公表した業績予想(連結、個別)の達成を目指し、全従業員一丸となって邁進してまいります。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

<ブライダルジュエリー事業>

主力のブライダルジュエリー事業(銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド等)における売上は、第1四半期連結会計期間の前年同四半期比1.3%増、第2四半期連結会計期間の同1.5%増、第3四半期連結会計期間の同3.2%増と、徐々に増加しました。

その結果、主力のブライダルジュエリー事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高が86億97百万円(前年同四半期比2.0%増)、営業利益が4億93百万円(同36.1%減)となりました。

また、当第3四半期連結累計期間の売上総利益率は、67.2%となり、引き続き高い水準を維持しました。

ブライダルジュエリー事業においては、3月のハイシーズン商戦を含む第4四半期連結会計期間での業績挽回を図る所存です。

当第3四半期連結累計期間におけるブライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗11店(移転4店舗含む)を開設

第2四半期連結累計期間に開設した10店舗(移転3店舗含む)に加え、当第3四半期連結会計期間に以下の1店を移転・開設しました。

11月29日 「エクセルコダイヤモンド小倉店」を移転・開設

また、11月1日には、「銀座ダイヤモンドシライシ」の旗艦店である銀座本店の全8フロア中4フロアをリニューアルオープンしました。

2) 商品力強化

第2四半期連結累計期間に発表した商品に加え、当第3四半期連結会計期間に以下の新商品を発表しました。

(銀座ダイヤモンドシライシ)

10月25日 15周年記念新作ファッションジュエリー“AQUA(アクア)”および“ENERGY(エナジー)”を発表。

11月1日 15周年記念ジュエリー“Chronos(クロノス)”および“Psyche(プシケ)”を発表。
(ご参考)“Chronos(クロノス)”は、その卓越した造形美がファッショントレンド誌“ヴォーグ(VOGUE)”編集部の目に留まり、日本版2009年1月号およびイタリア版2009年1月8日発売号に紹介記事が掲載されました。

11月22日 15周年記念セットリング“DIAMOND BLOSSOM(ダイヤモンドブロッサム)”を発表。

11月22日 オリジナルマリッジシリーズ“Gravis(グラヴィス)”を発表。

(エクセルコダイヤモンド)

10月25日 新作ファッションジュエリー“petite etoile(プティエトワール)”を発表。

11月22日 オリジナルマリッジシリーズ“Epoque(エポック)”を発表。

(ホワイトベル)

11月22日 オリジナルマリッジシリーズ“genuine(ジェニユイン)”を発表。

3) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化

4) ギフト販売の好調な伸び

(提携先の増加などによる販売網の拡充により、売上は前年同四半期比で31.8%増の1億27百万円となりました。)

5) ティアラ・レンタルサービスの顕著な伸び

(提携先数は前期末より21社増加し、売上は前年同四半期比で431.1%増の11百万円となりました。)

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるブランド別売上は、銀座ダイヤモンドシライシが53億16百万円(前年同四半期比5.7%減)、エクセルコダイヤモンドが28億34百万円(同16.7%増)、ホワイトベルが5億7百万円(同15.9%増)となりました。

銀座ダイヤモンドシライシにおける売上減の主な要因は、国内景気の低迷に加え、第1四半期連結会計期間に実施した3店舗(「宇都宮店」、「横浜モアーズ店」、「池袋店」)の移転にともない、当時の既存店舗3店において、販売休止期間が発生したことなどによるものです。

また、ブライダルジュエリー事業における商品部売上など本社関連「その他」の売上は、39百万円(前年同四半期比99.3%増)となりました。

(以下の①ブランド別売上高をご参照願います。)

<ウエディングプロデュース事業>

ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高2億62百万円(前年同四半期比3.1%減)、営業損失4百万円(前年同四半期営業損失：9百万円)となりました。

①ブランド別売上高

事業の種類別セグメントの名称	ブランドの名称など	当第3四半期連結累計期間(千円) (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	前年同四半期比(%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	5,316,642	94.3	59.4
	エクセルコダイヤモンド	2,834,634	116.7	31.6
	ホワイトベル	507,210	115.9	5.7
	その他(注)2	39,125	199.3	0.4
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘(注)3	262,411	96.9	2.9
合計		8,960,024	101.9	100.0

(注)1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部売上など本社関連の売上となっています。

3. 「オリーブの丘」は、株式会社トゥインクルスターのブランド名です。

4. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

②販売・サービス別売上高

事業の種類別セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第3四半期連結累計期間(千円) (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	前年同四半期比(%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	8,343,527	101.4	93.1
	ファッションジュエリー販売	184,497	103.7	2.1
	ギフト販売	127,168	131.8	1.4
	ウエディング送客サービス	30,945	154.9	0.4
	その他(注)2	11,473	549.7	0.1
ウエディングプロデュース事業	ウエディングプロデュースなど	262,411	96.9	2.9
合計		8,960,024	101.9	100.0

(注)1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。

3. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産の部)

流動資産は、新規出店や円高により商品及び製品が大幅に増加しましたが、その購入資金や新規出店及び移転資金により、現金及び預金が減少したため、前連結会計年度末に比べて61百万円減少して64億62百万円となりました。また、固定資産は、同じく新規出店にともなう有形固定資産、敷金及び保証金などの増加により、前連結会計年度末に比べて5億46百万円増加し、27億83百万円となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて4億84百万円増加し、92億46百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、中間納税により未払法人税等が減少したものの、短期借入金などの増加により、前連結会計年度末に比べて3億4百万円増加して、31億76百万円となりました。固定負債は、新規出店及び移転資金として、長期借入金、長期未払金などが増加したことにより、前連結会計年度末に比べて1億38百万円増加し、3億64百万円となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて、4億42百万円増加し、35億41百万円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、利益剰余金などの増加により、前連結会計年度末に比べて42百万円増加し、57億5百万円となりました。

結果として、自己資本比率は61.7%となり、当第3四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は31円05銭となりました。

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は、5億69百万円となり、前連結会計年度末に比べて5億70百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億85百万円の支出となりました。営業収入は91億62百万円(前年同四半期89億32百万円)と増加したものの、法人税等の中間納税の発生と、円高メリットを生かし、原材料・商品の仕入を増加させた結果です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、6億52百万円の支出となりました。新規出店及び移転に伴う固定資産の取得による支出と、敷金及び保証金の差入による支出による結果です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、4億67百万円の収入となりました。法人税等の中間納税資金や新規出店及び移転の資金としての短期・長期借入れによる収入と、短期・長期借入金の返済による支出、配当金の支払による結果です。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化と国内景気低迷により、厳しさが今後も予想されますが、当社グループの業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性や、先駆的な施策により、景気の影響を受けながらも、堅調に推移するものと見込んでいます。

なお、急激な国内景気の悪化により、提携先の倒産やウェディング情報誌の廃刊による集客減少の可能性など、減収リスクが潜在しますが、中長期的には、当社の成長軌道は維持できるものと判断しています。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、ブライダルジュエリー事業を中心に、当社グループの各事業・各店舗の特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指していきます。

また、ウェディングプロデュース事業を展開する株式会社トゥインクルスター(100%連結子会社)の業績は、経費削減をはかるとともに、営業体制の強化、Webを中心にした集客力強化、新規提携先の拡大などにより収入増が期待されることから、通期での黒字化を目指します。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、当社グループは、ブライダリジュエリー業界における優位性をさらに強化し、収益の最大化に努めます。

平成21年3月期の通期業績予想につきましては、平成20年5月9日に公表した「平成20年3月期 決算短信」における当期業績予想(連結、個別)から変更はありません。

※ 本資料の上記の予想は、発表日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2. 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別法または総平均法による原価法によっていましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことにもない、主として個別法または総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法）により算定しています。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	569,082	1,139,525
受取手形及び売掛金	625,870	586,762
商品及び製品	5,015,324	4,534,738
前払費用	103,027	94,276
繰延税金資産	12,755	54,979
その他	138,543	119,881
貸倒引当金	△1,831	△5,490
流動資産合計	6,462,772	6,524,673
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	1,043,055	729,298
車両運搬具（純額）	267	488
工具、器具及び備品（純額）	515,356	348,642
建設仮勘定	—	7,393
有形固定資産合計	1,558,679	1,085,823
無形固定資産		
ソフトウェア	23,991	15,967
電話加入権	5,504	5,504
無形固定資産合計	29,495	21,471
投資その他の資産		
長期前払費用	50,400	67,996
敷金及び保証金	1,099,642	1,024,793
繰延税金資産	39,253	35,463
その他	6,485	1,678
投資その他の資産合計	1,195,780	1,129,931
固定資産合計	2,783,956	2,237,226
資産合計	9,246,729	8,761,900

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	331,847	340,138
短期借入金	1,845,000	1,300,061
1年内返済予定の長期借入金	101,642	62,056
未払金及び未払費用	474,510	437,126
未払法人税等	100,718	336,718
前受金	294,793	298,628
その他	28,423	97,993
流動負債合計	3,176,934	2,872,722
固定負債		
長期借入金	152,612	66,944
退職給付引当金	83,401	72,924
長期未払金	128,407	86,447
固定負債合計	364,420	226,316
負債合計	3,541,355	3,099,039
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,389,589	2,347,411
自己株式	△70	△68
株主資本合計	5,703,904	5,661,728
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△337	△99
繰延ヘッジ損益	—	△442
為替換算調整勘定	1,806	1,675
評価・換算差額等合計	1,468	1,133
純資産合計	5,705,373	5,662,861
負債純資産合計	9,246,729	8,761,900

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	8,960,024
売上原価	2,996,957
売上総利益	5,963,067
販売費及び一般管理費	5,474,587
営業利益	488,480
営業外収益	
受取利息	293
為替差益	2,225
未払配当金除斥益	3,191
雑収入	1,866
営業外収益合計	7,577
営業外費用	
支払利息	26,001
雑損失	220
営業外費用合計	26,221
経常利益	469,836
特別利益	
貸倒引当金戻入額	3,691
役員退職慰労引当金戻入額	1,500
特別利益合計	5,191
特別損失	
固定資産除却損	12,868
特別損失合計	12,868
税金等調整前四半期純利益	462,159
法人税、住民税及び事業税	197,619
法人税等調整額	38,597
法人税等合計	236,216
四半期純利益	225,943

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
売上高	3,119,815
売上原価	1,052,548
売上総利益	2,067,267
販売費及び一般管理費	1,857,271
営業利益	209,996
営業外収益	
受取利息	0
為替差益	7,089
雑収入	859
営業外収益合計	7,950
営業外費用	
支払利息	9,311
雑損失	0
営業外費用合計	9,311
経常利益	208,635
特別利益	
貸倒引当金戻入額	132
特別利益合計	132
特別損失	
固定資産除却損	4,585
特別損失合計	4,585
税金等調整前四半期純利益	204,181
法人税、住民税及び事業税	92,538
法人税等調整額	2,848
法人税等合計	95,386
四半期純利益	108,794

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業収入	9,162,667
原材料又は商品の仕入れによる支出	△3,711,759
人件費の支出	△1,923,343
その他の営業支出	△3,457,676
小計	69,887
利息及び配当金の受取額	268
利息の支払額	△25,688
その他の収入	7,075
その他の支出	△223
法人税等の支払額	△436,717
営業活動によるキャッシュ・フロー	△385,398
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△557,155
有形固定資産の売却による収入	30
無形固定資産の取得による支出	△13,804
敷金及び保証金の差入による支出	△87,132
敷金及び保証金の回収による収入	11,283
その他	△5,537
投資活動によるキャッシュ・フロー	△652,315
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	800,026
短期借入金の返済による支出	△255,083
長期借入れによる収入	200,000
長期借入金の返済による支出	△97,772
自己株式の取得による支出	△1
配当金の支払額	△179,832
財務活動によるキャッシュ・フロー	467,335
現金及び現金同等物に係る換算差額	△64
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△570,443
現金及び現金同等物の期首残高	1,139,525
現金及び現金同等物の四半期末残高	569,082

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース 事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	8,697,612	262,411	8,960,024	—	8,960,024
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	584	995	1,579	△1,579	—
計	8,698,196	263,407	8,961,604	△1,579	8,960,024
営業利益又は営業損失(△)	493,360	△4,880	488,480	—	488,480

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考資料」

前第3四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
	金額
I 売上高	8,794,703
II 売上原価	3,135,003
売上総利益	5,659,699
III 販売費及び一般管理費	4,896,923
営業利益	762,775
IV 営業外収益	61,262
1. 受取利息	796
2. 為替差益	58,545
3. その他	1,920
V 営業外費用	17,076
支払利息	17,056
その他	20
経常利益	806,961
VI 特別利益	18,166
貸倒引当金戻入益	66
保険差益	18,099
VII 特別損失	83
固定資産除却損	83
税金等調整前四半期純利益	825,043
法人税、住民税及び事業税	374,134
法人税等調整額	18,102
四半期純利益	432,807

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1. 営業収入	8,932,620
2. 商品の仕入支出	△4,229,199
3. 人件費支出	△1,782,225
4. その他の営業支出	△3,009,844
小計	△88,647
5. 利息の受取額	639
6. 利息の支払額	△17,917
7. その他収入	58,920
8. 法人税等の支払額	△522,829
営業活動によるキャッシュ・フロー	△569,835
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1. 有形固定資産の取得による支出	△180,920
2. 無形固定資産の取得による支出	△4,727
3. 敷金保証金等の取得による支出	△63,757
4. 敷金保証金等の解約による収入	7,853
5. その他投資による支出	△218
投資活動によるキャッシュ・フロー	△241,770
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1. 短期借入による収入	585,000
2. 短期借入金の返済による支出	△180,000
3. 長期借入金の返済による支出	△39,942
4. 自己株式の取得による支出	△6
5. 配当金の支払額	△154,667
財務活動によるキャッシュ・フロー	210,384
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	146
V 現金及び現金同等物の減少額	△601,075
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,726,388
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,125,313

(3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高	8,523,770	270,932	8,794,703	—	8,794,703
営業費用	7,751,340	280,587	8,031,927	—	8,031,927
営業利益又は営業損失（△）	772,430	△9,654	762,775	—	762,775

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。